

両生類・爬虫類

爬両
虫生
類類
・
〔選定種解説〕

両生類・爬虫類

● 概 説 ●

◆市内の両生類・爬虫類相の特徴

両生類については、旧市域では主にニホンアマガエル（人家，水田地帯），ウシガエル（潟，沼，河川地帯），アズマヒキガエル（砂丘地帯）などが見られます。また，合併により山地帯が加わったことで，カエル類ではシュレーゲルアオガエル（水田），モリアオガエル（池，沼），タゴガエル（沢）などが，サンショウウオ類ではクロサンショウウオ（池，沼），トウホクサンショウウオ（沢），ハコネサンショウウオ（沢）が見られます。

爬虫類については，人家や田畑などでニホントカゲやニホンカナヘビ，シマヘビ，アオダイショウ，ヤマカガシなどが生息しています。また，河川や湖沼などの水辺地帯では，クサガメやスッポンなどのカメ類が生息しています。

「新潟市史 資料編12 自然 別冊」における新潟市両生類目録によると，2目5科9種の両生類が，同じく新潟市爬虫類目録によると，2目6科11種の爬虫類（海産種を除く）が収録されています。また，現市域の全域を対象として既存文献等の資料収集・整理を本市が独自に行った結果，記録を確認できる種として両生類では2目6科15種，爬虫類（海産種を除く）では2目8科15種が見られます。なお，新潟県全体では両生類18種，爬虫類（海産種を除く）15種が確認されています。

◆調査・選定の概要

（両生類）

本書では，新潟県が記載した9種のうちからカジカガエル，ハクバサンショウウオ及びヒダサンショウウオの3種を除き，新たにアズマヒキガエル，ニホンアカガエル及びトウキョウダルマガエルの3種を加えた計9種を希少種として選定しました。評価の結果，絶滅危惧Ⅰ類3種，絶滅危惧Ⅱ類1種，準絶滅危惧5種となりました。選定理由別の種数は，減少9種，環境悪化9種，交雑2種，希少9種です（複数の理由が重複している場合もあります）。

（爬虫類）

新潟県の選定種からニホンイシガメ，タカチホヘビ及びシロマダラの3種を現地調査の対象種としていましたが，種の確認情報が乏しく，今回の選定からは除きました。

◆減少の原因

(両生類)

生育を脅かしている原因別の種数は、森林の改変5種、水湿地の減少6種、河川の改変1種、農地の改変7種、一般開発9種、移入種の侵入1種、農薬使用8種、水質汚濁5種です（複数の原因が重複している場合もあります）。

これらは、農地の改変といった物理的な要因と、農薬使用などの化学的な要因の影響を受けているものと見られます。なお、農地の改変では、三面護岸工事、圃場整理、森林伐採などによる生息環境の悪化が特に大きいと思われます。

アカハライモリ

有尾目 イモリ科

Cynops pyrrhogaster (Boie)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	---------------	--------------	--------------

【選定理由】

減少，環境悪化，希少

【形態など】

体長は雄8～10cm，雌10～13cm。体色は背側が黒色で，腹側が赤くて不規則な黒斑がある。産卵期には，雄の尾などが美しい紫色の婚姻色を帯びる。

【分布の状況】

市内 市内では，中央区の海岸林内で確認されている。なお，過去に西区の黒埼，西蒲区の岩室で確認記録がある。

その他 本州，四国，九州に広く分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農地の改変，一般開発，農薬使用，水質汚濁



撮影：市域内
写真提供：杵淵 謙二郎

【特記事項】

井戸を守るという意味から，漢字では「井守」と書く。

地方名：イモリ，アカハラ

ニホンアカガエル

無尾目 アカガエル科

Rana japonica Günther

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 —	環境省 —
-------	---------------	----------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化，希少

【形態など】

体長は雄3.4～6.3cm，雌4.3～6.7cm。体色は背側が赤褐色で，腹側が白色または淡黄白色である。オタマジャクシでは背中に左右1対の黒点があり，形態がよく似ているヤマアカガエルのオタマジャクシと区別できる。

【分布の状況】

市内 市内では，北区，西区の池，沼，水田で確認されている。

その他 北海道，沖縄県を除く日本全土に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農地の改変，一般開発，農薬使用，水質汚濁

【特記事項】

地方名：イシャガエル



撮影：市域内
写真提供：杵淵 謙二郎

トウキョウダルマガエル

無尾目 アカガエル科

Rana porosa porosa (Cope)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 —	環境省 準絶滅危惧
-------	---------------	----------	--------------

【選定理由】

減少、環境悪化、交雑、希少

【形態など】

体長は雄3.9～7.5cm、雌4.3～8.7cm。トノサマガエルとダルマガエルの中間的な特徴を持っている。斑紋が独立し明確であり、背中線を持つことが多い。地域により背中線を持たない個体群もいる。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが、過去に新潟、黒埼、味方、中之口及び巻地区で確認記録がある。

その他 仙台平野、関東平野、新潟県中部・南部、長野県中部・北部に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少、農地の改変、一般開発、農薬使用、水質汚濁



撮影：市域内
写真提供：杵淵 謙二郎

【特記事項】

地方名：トノサマガエル

爬両
虫生
類類
【選定種解説】

トノサマガエル

無尾目 アカガエル科

Rana nigromaculata Hallowell

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅱ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 —
-------	---------------	---------------	----------

【選定理由】

減少、環境悪化、交雑、希少

【形態など】

体長は雄3.8～8.1cm、雌6.3～9.4cm。体色は変化が多く、背側が緑色または灰色で、腹側が白色または灰色であり、褐色の模様を持つものが多い。

【分布の状況】

市内 市内では、江南区、秋葉区、南区、西蒲区の水田、池、沼で確認されている。

その他 本州（関東平野～仙台～盛岡を除く）、四国、九州、大隅諸島に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少、農地の改変、一般開発、農薬使用、水質汚濁



撮影：市域内
写真提供：杵淵 謙二郎

【特記事項】

県下の多くの地域でトウキョウダルマガエルとの自然交雑が確認されている。

地方名：トノ

トウホクサンショウウオ

有尾目 サンショウウオ科

Hynobius lichenatus Boulenger

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	--------------	--------------

【選定理由】

減少，環境悪化，希少

【形態など】

体長は9～14cmで，長い尾がある。体色は背側が暗褐色で斑点があり，腹側が灰白色である。

【分布の状況】

市内 市内では，秋葉区，西蒲区の山地・丘陵地のゆるい沢などで確認されている。

その他 東北地方から新潟県（佐渡や粟島を除く），栃木県，群馬県にかけて分布する。なお，新潟県が分布の南限にあたる。

【減少等の原因】

森林の改変，一般開発



(成体) 撮影：市域内 写真提供：近藤 仁



(卵のう) 撮影：市域内 写真提供：杵渕 謙二郎

クロサンショウウオ

有尾目 サンショウウオ科

Hynobius nigrescens Stejneger

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	--------------	--------------

【選定理由】

減少，環境悪化，希少

【形態など】

体長は13～15cm。体色は背側が暗褐色で，腹側が灰色である。

【分布の状況】

市内 市内では，秋葉区，西蒲区の山地の池，沼などで確認されている。

その他 本州の福井県より北から東北地方にかけて分布する。平地から2,000m級の高山まで広い垂直分布を示す。

【減少等の原因】

森林の改変，農地の改変，一般開発，移入種の侵入，農薬使用



(成体) 撮影：市域内 写真提供：杵渕 謙二郎



(卵のう) 撮影：市域内 写真提供：杵渕 謙二郎

ハコネサンショウウオ

有尾目 サンショウウオ科

Onychodactylus japonicus (Houttuyn)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

減少, 環境悪化, 希少

【形態など】

体長は11~18cmで細長い。体色は背側が暗赤褐色で、まん中に幅広い縦のすじがある。幼生は流水に適応した流線型の体型で、黒い爪を持っており、変態までにおよそ2年を要する。

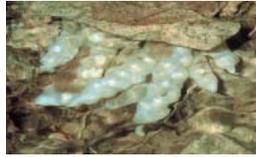
【分布の状況】

市内 市内では、西蒲区の山地の沢などで確認されている。

その他 本州の四国と低山地から高山にかけて、広い範囲にわたって分布する。

【減少等の原因】

森林の改変, 河川の改変, 一般開発, 農薬の使用



(卵のう) 撮影: 市域外



(幼生) 撮影: 市域内



(成体) 撮影: 市域外 写真提供: 杵淵 謙二郎

【特記事項】

地方名: センガムシ, マゴタロウムシ

爬両
虫生
類類
・
【選定種解説】

アズマヒキガエル

無尾目 ヒキガエル科

Bufo japonicus formosus Boulenger

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 —
-------	--------------	----------	----------

【選定理由】

減少, 環境悪化, 希少

【形態など】

体長は雄4~16cm, 雌5~16cm。体色は雄が黄褐色, 雌は茶褐色である。繁殖期に雄は黄色が濃くなる。全身に大小のイボ状の隆起がある。皮膚の分泌腺から乳白色の毒液を分泌する。

【分布の状況】

市内 市内では、北区, 東区, 中央区, 江南区, 西区, 西蒲区の池沼などで広範囲に確認されている。

その他 北海道から本州に分布する。

【減少等の原因】

森林の改変, 水湿地の減少, 農地の改変, 一般開発, 農薬使用, 水質汚濁



撮 影: 市域内
写真提供: 杵淵 謙二郎

【特記事項】

地方名: ヒキガエル, ガマ, ヒキ, フクガエル, イボガエル

モリアオガエル

無尾目 アオガエル科

Rhacophorus arboreus (Okada et Kawano)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化，希少

【形態など】

体長は雄4.2～6.0cm，雌5.9～8.2cm。体色は背側が緑色，腹側が灰白色で美しい。背中などに黒～赤褐色の模様があるものがおり，その模様の是非により「有紋型」と「無紋型」に分けられる。新潟県内で今までに発見されているものは，すべて無紋型である。指に吸盤があり，よく発達している。

【分布の状況】

市内 市内では，すべての区の山地や池沼で広く確認されている。

その他 本州の平地から山地に広く分布する。

【減少等の原因】

森林の改変，水湿地の減少，農地の改変，一般開発，農薬使用



成体

卵塊

撮影：市域内
写真提供：杵渕 謙二郎

参考文献（両生類・爬虫類）

巻町・潟東村教育委員会, 1976. 角田山塊の自然—角田山塊自然総合調査報告書一. 179-194.

新潟市史編さん自然部会, 1991. 新潟市史 資料編12 自然. 新潟市. 254-265.

黒埼町史編さん自然部会, 1994. 黒埼町史資料編 5 自然. 黒埼町. 206-235.

環境省, 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物. 財団法人自然環境研究センター.

新潟県, 2001. レッドデータブックにいがた. 新潟県環境生活部環境企画課. 69-79.